



芦安中学校だより

第 3 号

校長 大石 浩雄

2024. 6. 26

☆夜叉神の森自然パトロール

5月27日(月)の午前中を使って全校で夜叉神の森自然パトロールに出かけました。時折雨がパラつくものの強く降られることなく無事終えることができました。この自然パトロールは長い間芦安中生徒会の取組として行ってきたことです。今回生徒が通った登山道にも、先輩方が掛けた看板がいくつもありました。そんな歴史と伝統がある自然パトロールですが、今回の様子を見ていて「課題だな」と感じることがありました。それは生徒会活動のはずなのに先生の指示を待っている(指示しないと動けない)ことが多かった点です。自然パトロールをするにあたり、「ごみをたくさん拾おう」とか「登山道周辺の自然環境を守るためにしっかり観察しよう」などの意識が弱かったのではないのでしょうか。自然パトロールだけでなく、芦安中学校で取り組むいろいろな行事や活動は単なる体力づくりやレクリエーションが目的ではありません。意識を高く持ち、何を学ぶのか、何を身につけるのか、なぜその取組をするのかといったことを大切にすることで学びが深まります。他の学校にはないような行事や活動が多いことが芦安中学校の特色です。せっかく芦安中に在籍しているのだから自分の成長に大きく資するような行事・活動にいきましょう。



☆北岳登山に向けた取り組みが始まりました

5月28日(火)の6校時の総合の時間から全校登山に向けた学習が始まりました。7月8・9日に予定されている本番に向けて、学習していく内容やトレーニングの予定などについて確認しました。この学習の中で「なぜ登山をするのか」ということを話題にしました。この話題については、生徒・大人にかかわらずその人の経験や考え方、価値観によって多様なとらえ方があり、答えがあると思います。この時はあえて結論のようなことを言わずに考えてみようとしてだけ伝えておきました。本番までの時間の中で、ご家庭でもどうぞ話題に取り上げてみてください。



☆プール開きと避難訓練・児童生徒引き取り訓練

5月29日(水)は2校時にプール開きを、5校時終了後に避難訓練と引き取り訓練を実施しました。2校時のプール開きについては参加した生徒全員が真摯な態度で取り組むことができました。儀式的な部分が終わってから準備体操をして入水、今年度初めてのプールということもあり、水に慣れるための活動を中心に授業が行われました。今年初めてのプールに生徒は大喜びでした。5校時終了後の避難訓練については、地震の警戒宣言が出されたことを想定した保護者による生徒の引き取り訓練を行いました。保護者の皆様にはお忙しい中時間を確保していただきありがとうございました。

芦安中学校の生徒は他の市内中学生に比べ通学距離や通学方法が異なる場合が多く、もしもの場合、生徒自身がその場で判断しなければいけないことも多くなることが予想されます。学校としても日頃から「もし今大きな災害が発生したら」という意識を持てるように指導していきたいと思っています。ご家庭でも親子の会話の中に取り上げていただけるようご協力をよろしくお願いいたします。



☆小中合同イングリッシュゲーム

5月30日(木)のひびきの時(朝学習の時間)と朝の会の時間を利用して小中学校合同の英語活動「イングリッシュゲーム」が実施されました。中学生が英語を使ったゲームで小学生に楽しんでもらうという企画で、1年生から3年生の中学生全員がキャストとして会全体の運営と2種類のゲームの進行をしました。校長としてはじめてこの活動を見ましたが、小学生も中学生も英語を使いながらしっかりと楽しそうに活動をしているところに感心させられました。中学生にとって学んできた(inputした)ことを使う(outputする)とても良い機会であったと思います。

芦安小中学校の特色のひとつである英語教育・イマージョン教育の一環として、また隣接している小中一貫校の利点を生かした活動として、今後さらにブラッシュアップしていきたいと考えています。



☆学校林整備をしてきました

6月3日(月)の午後に全校で学校林整備に行きました。もともと5月に予定されていましたが雨のためにこの日に順延になっていました。この日も天候が心配されましたが、おおきな影響もなく無事に終わることができました。今回の学校林整備の内容は、昨年までと少し変え、植林(桜)作業を行ったことのない1年生のみが行い、その他の生徒についてはこれまでに植林した木々の手入れや周辺的环境整備を行いました。年に1~2回程度しか行くことのない学校林ですが、そこまでの道や周辺の木はきちんと手入れをしている様子がありました。きっとどなたかが手入れをしてくれているのでしょう。こうした見えないところで自分たちを支えてくれている人の存在に気づき、感謝できるような生徒に成長することを願っています。



☆講師を招いて自然環境について考える学習

6月11日(火)の6校時に環境省の自然保護官補佐や生態系保全等専門員3名を講師に迎え登山学習が行われました。今回は北岳の自然と環境についての学習でした。私は講師の話聞いて「経験することが大切だ」という言葉に深く感銘しました。その方は「登山をすることは苦しいことかもしれない。ただその苦しさを経験するからこそ、そこにある自然の本当の素晴らしさがわかるのです。本を読んだりネットで調べて知っているだけとは違うのです。」と話していました。

最近はネットで調べて知ったことをさも自分が経験してきたことのように語る人間やネットで誰かが言っている意見をただまねて偉そうに語る人間が多くなったように感じます。芦安中のみなさんにはそうした上辺だけの人間になってほしくないと思います。どうぞ登山に限らず学校生活のいろいろな場面で「経験できること・体験できる機会」を大切にしてください。



☆地域ふれあい道徳公開・教育を語る会

6月12日(水)の午後に芦安小中学校として地域ふれあい道徳公開・教育を語る会が行われました。多くの保護者や地域の方に来校していただき生徒の様子を見ていただきました。ありがとうございました。公開授業は全校道徳という形で中学1年生から3年生までが同じ教室に集まり、SNSの中でのコミュニケーションについて考えました。(裏面に続きます)



参加した生徒が一生懸命に取り組んでいる様子が伝わりとても良かったです。こうした授業は生徒数が少ない芦安中学校だからこそできる形式であり、異年齢集団でひとつのテーマを考えることで多様な考え、立場の違う人の意見に触れる機会となりました。教育を語る会の講演では高名な登山家である今村量紀氏をお招きして世界の山々や北岳の素晴らしさや困難を乗り越えて目標に向かうこと大切さについて話していただきました。

☆登山説明会

6月12日(水)の講演会終了後、中学校に戻り中学生と保護者対象の登山説明会がありました。日程やルートをはじめ、健康上の注意点や持ち物等の準備、安全上の注意点等を確認しました。残念ながらこの会に参加できなかったご家庭については、配布された資料を確認して必要な準備を進めていただきます。先の講演会で今村氏が、「登山は危険だと言われます。ただ、しっかりとした準備等をすることでその危険は日常生活での危険と変わらないものとなります」とおっしゃっていました。7月8・9日の北岳登山に向けて装備や持ち物の準備はもちろん、大きな自然に正対し挑戦するという心構えをつくれるようにご家庭でも話をいただけるとありがたいです。



☆防災訓練(大雨による洪水想定)から考える

6月17日(月)の3校時終了後に大雨により洪水が発生する想定で3階に避難する訓練を行いました。(垂直避難訓練と言います)。訓練そのものは整然とおこなわれよかったです。ただ、訓練を見ていて1点、気になることがありました。芦安中ではいつも身近にヘルメットがあるようにしているのに、それが正しく使えていなかったことです。確かにヘルメットをかぶらなくても避難はできます。「ヘルメットのことまで頭が回らなかった」「かっこ悪くて嫌だからかぶらない」「いざというときだけちゃんとやれば訓練は手を抜いてもよいと思っている」等いろいろな理由が考えられますが、いざというときに自分の命を守る確率を少しでも上げるためには、ヘルメットを着用したほうがよいということに間違いのないことでしょう。訓練であっても本番であっても「自分の命を守るための最善の選択(判断・行動)ができる芦安中の生徒」になれるよう指導の方法を含めて検討していく必要があると考えています。



☆南アルプス開山祭に参加して

6月22日(土)の芦安小4~6年生と中学生全学年で広河原にて行われた南アルプス開山祭に参加してきました。式典では多くの来賓の方や登山者の前で「北岳の歌」「雪山賛歌」を披露しました。小中学生がうたっていると周囲の人たちの表情が柔らかく笑顔になっていく様子が見え、式典後何人もの人から小中学生の歌声や一生懸命歌おうとする姿がよかったとの言葉をいただきました。多くの人を笑顔に変え、喜ばせることができる子供たちの持っている力の素晴らしさを改めて感じました。午後は広河原園地内で自然観察学習を行いました。芦安ファンクラブの方が講師をしてくださり、南アルプスや広河原の成り立ちや動植物について教えていただくと同時に斧を使って丸太を切る木こり体験をさせていただきました。



☆校長のひとこと

1 学期も半分以上が過ぎました。これまでの学校生活の中で生徒は何を学んだのか。ふと、そんなことを考えます。何かを学べばそれが行動として現れるといわれます。言い換えれば行動として現れないのは、学んだといえるところまで達していないということなのでしょう。4 月からの生徒の様子を見てきて「ずいぶん行動が変わったな」と感じる部分と「あまり変わっていないな」と感じる部分があります。もちろんいい部分が変わらないのは問題ないですが課題となる部分に変化がないと「我々は何を教えたのだろう」「生徒はいったい何を学んだのだろう」と思ってしまいます。

教育の世界で言われていることに「効果を上げるためには子供の主体性（自分がやろう、自分でやりたいと思う気持ち）が重要」ということがあります。まったくその通りだと思うのですが、何かを始めようとしたときに「やりたくない」という言葉を当たり前のように発する状態の子供を見るといったいどうすればいいのかと頭を悩ませることもしばしばです。公立学校では安易に子供のやりたいことだけやらせておくわけにはいかないのです。ただ、「やりたくない」といったから「では、やらなくていいです。その代わりその結果は自己責任です」というのでは学校としての責任を放棄したように感じます。

子供たちの「やりたくない」を「やってみよう」や「やってみたい」に変える。この能力が私たち大人に求められているのだと思います。「言うは易し、行ふは難し」。上辺だけの言葉や四角四面な接し方では子供に大切なことは伝わらないでしょう。子供の心に目を向け、寄り添い、同時に将来に向けて変化の激しい社会を生き抜く力を育てていくことができるよう私自身教育的熱意をもって日々勉強、日々努力、日々工夫をしていきたいと思っています。

☆最後に

第2号(5月号)から約1か月間に芦安中学校であったいろいろな活動を日々まとめていったところ、今回はずいぶんと量が多くなってしまいました。内容を精選して紙面を減らすことも考えましたが、それよりも芦安中学校の中で行われていることを一つでも多く知ってもらうほうがよいのではないかと思います、通常よりも紙面を大きくする形で出させていただきます。

芦安中学校ではこの学校だよりのほかにも毎週ホームページを更新して学校の様子をお伝えしております。(こちらは教頭先生が頑張ってくれています)右のQRコードを読み込むと学校ホームページのお知らせページが見られます。こちらもぜひご覧ください。

